



【第6章】

関 連 事 業

第6章 関連事業

6-1 土地区画整理事業

6-1-1 事業概要

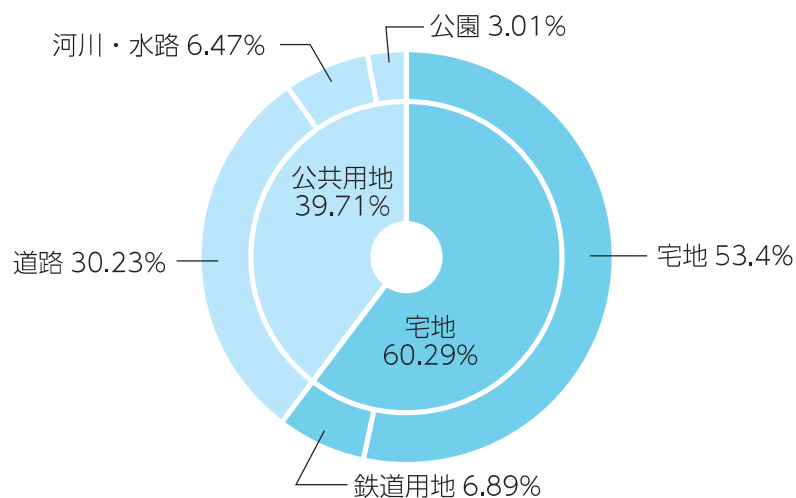
折尾駅南側の土地区画整理事業では、住環境の改善や、防災性の向上を図り、将来にわたって安全・安心に暮らせるまちづくりを目指しています。

事業は、連続立体交差事業の進捗に合わせて進めています。

■ 事業概要

事業主体	北九州市
施行面積	約16.9ha
総事業費	約246億円
施行期間	平成18年度～令和10年度
平均減歩率	約18%（減価買取前 約23%）

土地利用について、折尾地区総合整備事業により全体に占める鉄道用地が減り、宅地が増加します。



■ 土地利用（施行後）

区 分		面積 (m ²)	(%)
公共用地	道 路	51,002.99	30.23
	公 園	5,070.00	3.01
	河川・水路	10,911.00	6.47
	計		39.71
宅 地		101,707.18	60.29

道路は地区内の都市計画道路を骨格として、交通の円滑化と安全性並びに土地利用の増進を図るため、区画道路を配置するとともに歩行者専用道路を適宜配置します。

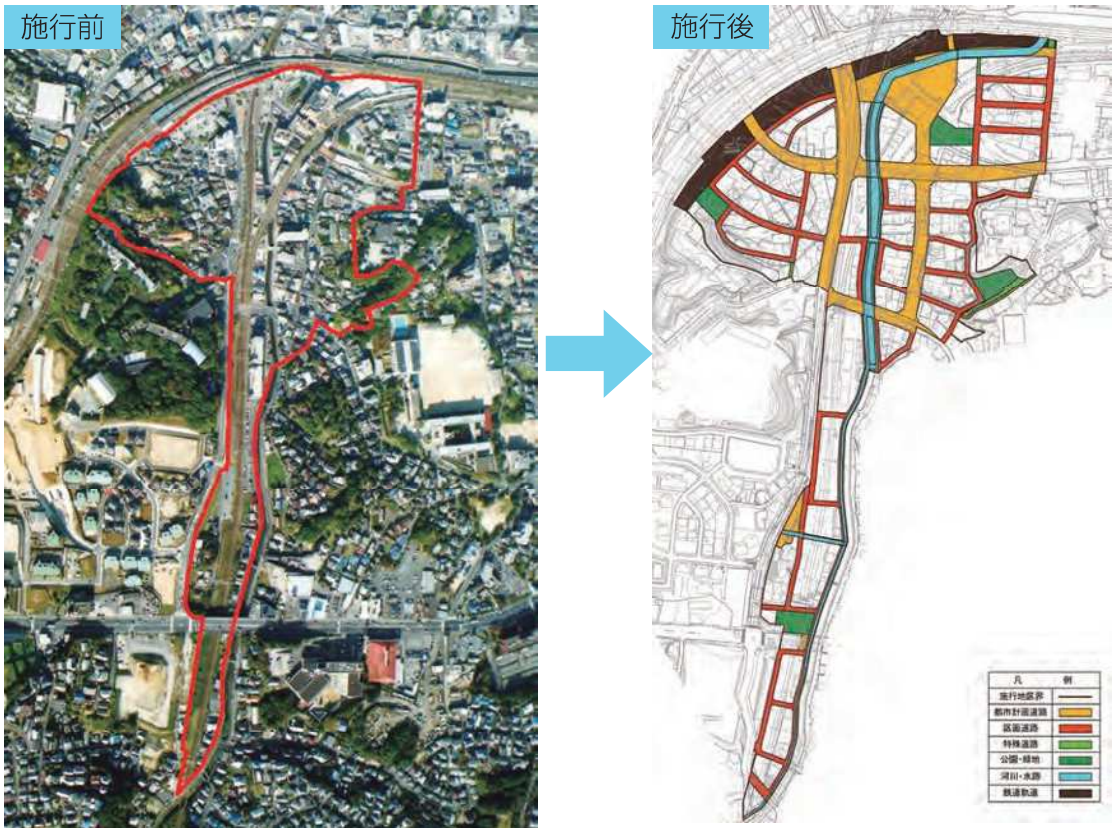
公園は地区面積の3%以上の面積を確保するとともに、誘致距離を考慮して適宜配置し、都市環境の保全を図ります。

■ 道路計画

区 分		幅員 (m)
幹線道路	国道3号	25
	折尾中間線	17
	折尾東西線	17
	折尾駅南口線（駅前広場含む）	17
	東筑堀川町線	15
	折尾堀川町線	15
区画道路		4～12
特殊道路		4～8

■ 公園計画

街区公園 4か所



施工前後の折尾駅南側

宅地や区画道路の整備により土地利用がしやすく防災性に優れた住環境が整備されます。



事業着手前



現在



将来イメージ

堀川町地区 将来イメージ

6-1-2 進捗状況

事業区域を3つの地区（堀川町、東側、鉄道跡地）に分割し、連続立体交差事業の進捗にあわせて計画的に進めています。

堀川町地区については、平成30年度に70戸の建物移転が完了しました。9割以上の宅地で使用収益開始しており、一部では、新しい建物での生活も始まっています。

東側地区と鉄道跡地地区の建物移転率は、約83%（153戸/184戸）となっています。（令和7年3月末現在）



堀川町地区宅地造成後

6-2 街路事業

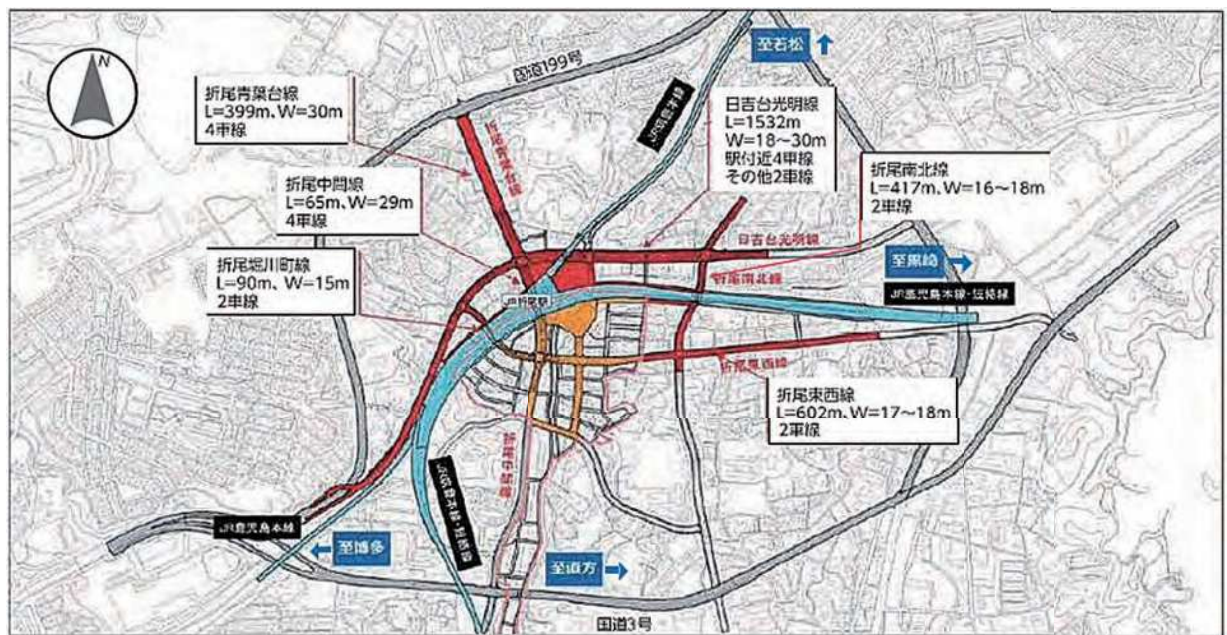
6-2-1 事業概要

広域交通拠点にふさわしい JR 折尾駅周辺の交通ネットワークを形成するため、折尾駅北側駅前広場の新設、日吉台光明線や折尾青葉台線（学園大通り）等の駅へアクセスするメイン道路の4車線化、幹線道路の新設を行うとともに、鉄道高架下の活用や鉄道沿線地域の交通の利便性向上を目的とした側道や自動車歩行者専用道路の整備を進めています。

■ 事業概要（総事業費 約188億円）

事業主体	北九州市
事業延長	約3.7km
北側駅前広場	約9,800m ²
施行期間	平成16年度～令和10年度

道路の名称	延 長	幅 員
日吉台光明線	約1,530メートル	17.5から30メートル
日吉台光明線（駅前広場）	約9,800平方メートル	—
折尾青葉台線	約400メートル	30メートル
折尾中間線	約65メートル	29メートル
折尾東西線	約600メートル	17メートル
折尾南北線	約420メートル	17メートル
折尾堀川町線	約90メートル	15メートル
その他道路 （側道・自転車歩行者専用道路等）	約640メートル	6から12メートル

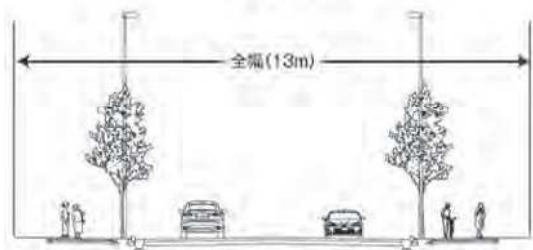


※道路名は都市計画道路

整備計画図

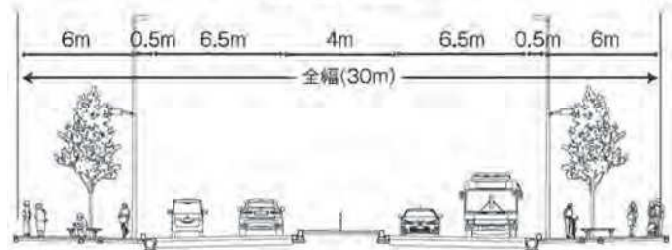
整備前

現況断面図



整備後

4車線道路 断面図



整備前



整備後



整備例 (日吉台光明線)

6-2-2 進捗状況

事業進捗率は約96%（令和5年決算まで）となっています。

また、用地買収率は約96%（事業認可区間）（令和7年1月末時点）、JR 用地処理を含めると約97%となっています。

平成28年4月には日吉台光明線の道路拡幅工事に着手し、平成29年12月には高架下を通る新設道路として折尾堀川町線が供用開始しました。

現在、日吉台光明線や折尾青葉台線、折尾東西線、折尾南北線において鋭意、整備を進めています。

今後は、折尾駅南側駅前広場の完成にあわせて、アクセス道路の供用開始を予定しています。



折尾南北線

